



3年ぶりのハワイ開催! ウクレレピクニック イン ハワイ

待ちに待ったハワイ開催。今回は「1933ウクレレオールスターズ」のアイコン高木ブーさんの90歳の誕生日のお祝いも一足先にハワイで行われた。

第14回ウクレレピクニック イン ハワイが17日～19日の3日間開催された。パンデミック中はオンラインイベントだったため、実に3年ぶりのハワイ開催となり、日本とハワイで多くの人たちが「待ってました!」と諸手を挙げて喜んだ。

今回特に注目を浴びたのが、高木ブーさんを象徴としたバンド「1933ウクレレオールスターズ」に、2年前より加入した荻野目洋子さんがハワイイベントに初参戦。ただ、生憎ハワイは悪天候で、初日のモアナサーフライダー ウェスティンリゾート & スパのビーチバーで予定されていたスペシャルライブは残念ながら中止。その代わりに、夕方にシェラトン・ワイキキ入り口でゲリラライブを敢行。普段何万人の前でコンサートをするような大スターたちが手を伸ばせば届くところでライブをしているので、その場に居合

わせた人たちは強運の持ち主といえる。

メインの18日のアラモアナセンターのセンターステージでの「ウクレレピクニック」は、ハワイを代表するミュージシャン、ライアテア・ヘルムや、マーク・ヤマナカをはじめ、米国内からのウクレレの名手、グループパフォーマー、そして、日本からは1933ウクレレオールスターズが登場。6時間に及ぶショーを無料で楽しめ大反響を呼んだ。

さらに今回は最終日の19日(日)に「プレミアムウクレレパーティー&高木ブートリビュート」が、Deck. Waikikiのレアヒルムで開かれた。

この日も直前まで雨が降り、急遽ステージとなるラナイにテントを設置。午後4時に、ウクレレピクニック イン ハワイ主宰の関口和之さんによる開会の辞があり、続いてライアテア・ヘルムのライブ演奏。彼女の美しい



フォルセットに酔いしれた。

雨も止んで日差しもあったことから、せっかくのダイヤモンドヘッドを背景にした美景を堪能できるようテントを外し、1933ウクレレオールスターズのライブ演奏開始。1曲目はよっちゃんのお孫で親しまれる野村義男さんの曲「優しい奇跡」でスタート。3曲目を終えたところで、荻野目洋子さんも登場し、彼女の代表曲「コーヒー・ルンバ」や「ダンシングヒーロー」を披露。そして、お待ちかねの高木ブーさんが登場。関口さんがブーさん親子の姿を見て書き下ろした曲「パパの手」を演奏した後に、ブーさんお得意のハワイアンメドレーを披露した。

終盤にさしかかってまた雨が降り出し、演奏中にテントを再度設置する場面がありながらも、ブーさんのエネルギッシュな演奏で会場は大盛り上がりとなった。「ハナホウ(アンコール)」の声に応えて、最後はドリフターズの代表曲「いい湯だな」を演奏し、観客も一緒にあの有名な振り付けをしながら歌い終了した。

そして、この後にサプライズで、ブーさん



の名物コントであった雷様の姿をかたどった誕生日ケーキが届けられ、一足早い90歳の誕生日祝いを参加者全員で行った。ブーさんも大喜びし、礼を述べながら「来年もまたハワイに来ます!」と約束した。15周年となる来年もまた元気にウクレレ演奏する姿を見れることを楽しみとしたい。

文・カバットバットみき

